

|               |  |
|---------------|--|
|               | 福島大学 学際分野  |
| 学部等の教育研究組織の名称 | 人文社会学群人間発達文化学類（第1年次：270名 第3年次：10名）<br>【夜間主】（第1年次：20名）<br>人間発達文化研究科（M：40名）  |
| 沿革            | 明治7（1874）年 福島師範学校講習所 設置<br>大正9（1920）年 福島県立実業補習学校教員養成所 設置<br>昭和18（1943）年 福島師範学校講習所を福島師範学校に改称<br>昭和19（1944）年 福島県立実業補習学校教員養成所を福島青年師範学校に改称<br>昭和24（1949）年 福島大学学芸学部 設置<br>昭和41（1966）年 学芸学部を改組し、教育学部を設置<br>昭和60（1985）年 教育学研究科 設置<br>平成17（2005）年 教育学部を改組し、人文社会学群人間発達文化学類を設置<br>平成21（2009）年 教育学研究科を改組し、人間発達文化研究科を設置  |
| 設置目的等         | 昭和24（1949）年に、学芸学部が設置された。<br>昭和41（1966）年に、学芸学部を改組し、教育学部が設置された。<br>昭和60（1985）年に、教員組織その他の条件の充実と教育研究活動の展開のため、教育学研究科が設置された。<br>平成16（2004）年に、従前の教育学部における人材育成の成果を踏まえ、人間の発達支援及び関連する諸文化の探究と創造を通じて社会に貢献する専門的職業人の養成を目的として、人文社会学群人間発達文化学類を設置した。<br>平成21（2009）年に、地域の様々な課題に対応するために、広い視野と高度な文化的知識・技術を身につけさせ、人材育成を通して次世代を創出できる高度専門職業人を養成することを目的に教育学研究科を改組し、人間発達文化研究科を設置した。 |
| 強みや特色、社会的な役割  | 【総論】<br>福島大学における学際分野においては、真理の探究を図るとともに、地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。<br>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。   |

## 【教育】

(学部)

- 人間の発達支援及び関連する諸文化の教育研究を通じて、人間の発達と文化の探究・創造に関する多彩な専門的知識と技能の獲得を通じて、人間の発達を支援する人材を養成する。
- このため、「学修指標」に示した4つの力（教え育む力、理解し探究する力、人や文化と関わる力、解決し創造する力）の涵養を図り、学士課程の4年間を通じて、自らの知的探究心に基づき自分の将来をイメージしながら主体的に学びを作り上げていく「自己カリキュラム」等に取り組んでいる。
- これらの取組を通じ、学生自らが卒業後の進路を見通した学びにより、平成20年度から24年度にかけて、約8割の学生が、教員、保育士等の資格を取得している。
- 平成16年度に行った学部改組以降、卒業生の三分の一が卒業後の進路に教員を選択している。人間の発達を支援する人材の育成という教育理念の下、学生が主体的かつ多彩に学んだ結果、多様な進路の中から教員を選択していることによるが、これまでの実績や社会ニーズを踏まえ、教員養成系学部にはない特色ある人材養成像をより明確にするとともに、全学的な教育課程及び教育研究組織の見直しを視野に入れた人材養成機能の強化を図る。

(大学院)

- 人間発達支援者の高度化のため学生が身につけるべき力として「専門探究力」「コーディネータ力」「人材育成力」の3つの能力を有する専門職業人を養成する。
- このため、「プロジェクト実践研究」等の実践的な学びに取り組むカリキュラムを構築している。また、被災3県の教育復興プロジェクトに参画し、復興を担う次世代の育成等の地域の課題研究に取り組んでいる。
- 今後、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化するとともに、地域及び学生のニーズを踏まえつつ、福島県教育委員会との連携・協働による教員の資質能力の総合的な向上を目指す組織の在り方を検討する。

## 【研究】

- 現在、附属4校園と連携した取組（KeCoFu [Key Competency of Fukushima Fuzoku] プロジェクト）等の活動を通じて、人間の発達や支援に関わる研究を進めている。

震災以降は、OECD 東北スクールや子ども支援プロジェクトの実績を

もとに、教育復興と未来創造型の人材育成を推進するイノバティブ・ラーニング・ラボラトリを設置し、大学院生の参画等、人間発達支援者の育成を組織的かつ継続的に加速させる研究に取り組んでいる。

- このため、附属4校園と連携した取組を通じて、校種を超えた協働による縦断的キーコンピテンシー（校種を超えて求める人材像に必要と考えられる資質や能力）を身につけさせる指導法を開発し、実践している。また、発達段階の異なる子供の成長に寄り添い、教え育む新たな教育実践に関して公刊された出版物は日本保育学会の文献賞を受賞している。
- 今後、イノバティブ・ラーニング・ラボラトリによる復興教育等を教育研究組織の中に位置付けながら、人間の発達や支援に関わる課題の解決に向けた組織的な研究を地域の中核として推進する。

#### 【その他】

- 震災以降、福島教育復興に組織的かつ継続的に取り組んでいる。子供たちの精神的なケアをはじめ、子供たちが主体的に取り組むことを目指す学習や運動を通じて、地域復興を支える、将来の担い手を育成する活動を展開している。
- 全学の機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しに取り組む。